

授業科目

公衆栄養学実習I

担当教員名 鈴木 一恵	対象学年	3	対象学科	健栄
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	45

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○	○	○	◎	◎

授業の概要

本科目は1回あたり2コマの連続授業である。

公衆栄養学1、2、公衆栄養学実習1、2を通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。特に、公衆栄養学実習1では、公衆栄養学2（講義）で学ぶ公衆栄養マネジメントの理論、公衆栄養アセスメント、計画、実施、評価の理論と方法について、実習をとおして体験的に身につける。

授業の目的

地域や組織が食生活関連の健康問題を改善して、人々のQOLの向上をめざす公衆栄養活動がヘルスプロモーションの考え方に基づいて実施されるために、対象集団の課題を明確にアセスメント、課題解決のための目的・目標設定、実施・運営のための計画、実施、評価ができるようになる。

学習目標

1. 公衆栄養マネジメントの概念と枠組みについて、イメージし、記述できる。
2. 対象や目的に応じた公衆栄養アセスメント（食事調査等）方法を選択してできる。
3. 食事調査（食事記録法）を実施し、栄養素レベル、食品群レベル、料理レベル、食事レベルの解析と評価ができる。
4. 食事と関連因子の関連についての解析と評価ができる。
5. 自治体等の健康・栄養データから地域の栄養課題を読み取り、栄養疫学的な解釈ができる。
6. 対象集団の課題や社会のニーズにあった目標設定ができる。
7. 公衆栄養プログラムの計画を立案できる。
8. 公衆栄養計画の評価計画を立案できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	実習のオリエンテーション：実習の目的と進め方、アセスメントの設計	ワークショップ	
2	公衆栄養アセスメント：食事記録の面接確認と重量換算	ワークショップ	
3	公衆栄養アセスメント：食事記録の解析（栄養素、食品群別摂取量）	ワークショップ	
4	公衆栄養アセスメント：料理レベル、食事バランスガイド等を用いた診断	ワークショップ	
5	公衆栄養アセスメント：対象者の食事摂取基準を算出し診断する	ワークショップ	
6	公衆栄養アセスメント：食事と健康データ、生活因子データの関係の分析	ワークショップ	
7	前半（食事調査と解析）の発表会	ワークショップ	
8	自治体の健康、栄養データから課題の把握	ワークショップ	
9	自治体の栄養課題に対応した目標の設定	ワークショップ	
10	既存の対策を調べる	ワークショップ	
11	栄養プログラムの計画	ワークショップ	
12	栄養プログラムの計画	ワークショップ	
13	評価計画作成	ワークショップ	
14	後半（自治体の公衆栄養計画）の発表会	ワークショップ	
15	まとめ	講義	

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	公衆栄養学IIと兼用					

参考書						
その他の資料						

評価方法

レポート、ワークショップへの参加度

履修上の留意点

グループでのワークショップ形式ですすめるため、積極的な参加をしなければ学習効果はあがらない。

オフィスアワー・連絡先

研究室 連絡先 025-257-4421 (内線5204)